

- ・留学期間：2年次 夏期
- ・所属学科：臨床心理学科

私はカナダのモントリオールでマギル大学の語学研修夏季プログラムに参加した。約三週間のカナダでの生活はとても色濃い思い出となった。

充実した毎日

英語の学習は事前にインターネット上で行われるテストや自身の英語力についてのアンケートに基づいてクラスが振り分けられるため、自分のレベルに合った授業が受けられる。昼食後は夕方までマギル大学の「モニター」と呼ばれる大学生達と観光や買い物に出かける。その後約一時間半の自由時間を過ごし、夕飯の後に課外活動が行われる。食後の課外活動は全員参加しなければならない場合もあるが基本的には自由参加であった。そして土日はバスに乗りオタワやマーケット、博物館や美術館に出かけた。

二週間目の週末はオプションとして、二泊三日のナイアガラの滝及びトロント観光プラン、日帰りのケベック観光プラン、モントリオールに残り二日間を自由に過ごすプランのどれかを選べる。私は二泊三日の小旅行を選んだ。ナイアガラの滝はとても壮大で美しく、朝早く起きて滝の水が落ちる前の川を見に行った事も特に良い思い出となった。そして三日目は都市部にあるトロントの観光に行った。普段過ごしているモントリオールよりどちらかというとアメリカの街並みに近く、日本の都市よりも発展しているように感じられとても驚いた。そして寮に帰ってからは同じように英語の授業を受け、最終日前日の夜は寮の地下でのパーティーに参加した。目まぐるしい日々だったが、とても楽しく過ごす事が出来た。以上が留学中の生活サイクルである。

英語に親しむきっかけとしての留学

そして私の英語力についてだが、はっきり言うと私は英語が得意ではない。中学生までは得意な方だったが、高校生から嫌いな科目の一つに英語を挙げるようになった。それは大学生になった今でもあまり変わらない。大好きだったロックバンドが急に英語しか歌わなくなった時、英語が嫌で聞かなくなったくらいにこにかく英語が苦手である。しかし海外旅行は好きなので、あまり気負わず三週間カナダ旅行に行くくらいの気持ちで行こうと決めていた。だからこの語学研修は英語に興味を持つこと、少しでも英語を好きになるきっかけになれば良いなと思い参加を決めた。

新しい出会いと、独り時間を楽しむバランス

そして語学研修は関東圏の大学の人たちが多く参加しているが、関西の大学生の参加人数はとても少ない。だからこそ関東の友達を作ったり新しい出会いを求めたりすることも出来るが、逆に捉えると今後会う事がほとんどない人達であるため、開き直って自分らしく過ごす事や、これまでとは違う自分を心がけて過ごす事も可能である。留学中、集団行動が続くと疲れることや気が滅入る事が少しはあったが、それは日本でも同じである。私はとにかく「仕方がない」と開き直って夜は絶対に散歩に出かけた。私は一人で過ごす事が大好きだ。正直団体行動はあまり好きではないし、自分一人の時間がないとストレスが溜まる。だからこそ留学に参加し全く知らない土地の知らない環境で、初めて会う人たちと過ごす事やその環境で頑張る事は今後の人生にとって大きな糧となるのではないかと思い、実際にそうなったと感じる。

モントリオールの街角で、自己を見つめる

語学研修で学べる事は英語だけではない。カナダはとても美しい国である。モントリオールは歩くだけで楽しく、感性に響く美しい街並みだった。街の中で飛び交う言語は英語やフランス語が主流であるため、これも語学の勉強になる。毎日足繁く通ったノートルダム大聖堂の広場はバイオリンやギターなどストリートミュージシャンによる音色が奏でられており、とても心地良かった。そしてオールドモントリオールの広場の食べ物はとても美味しく、街中にあるメープルシロップ店のカフェラテもとても美味しかった。歩きながらその日にあった出来事を振り返り、自分がどう思ったか、過ぎた事ではあるがどうするべきだったのか、明日はどうするかなどを考える時間が出来たため、気持ちの整理がついた。

知らない街で知らない人が行き交う空間で何かを考えながら歩くことにより、自分について少し分かったことが増えた。そのため、語学研修はいわゆる自分探しの旅として行くのも良いと感じた。日本にいる時よりも、私は何が好きで何が嫌で、何を見た時に心が動いてどういう振る舞いをされると嫌な気持ちになったり安心したりするのかなど、自分のパーソナルな部分について知ることが出来た気がする。

優しい人の多い国

そしてこの研修で反省すべき点について述べる。事前に英語の学習をしなくても不自由なく生活する事は可能だが、モニターとの意思疎通が困難だった。モニターはとても親切でこちらの気持ちを推し量ろうと頻りに話しかけてくれるが、伝えたい感情や事柄を相手に伝える事が難しく感情の共有が出来なかった為もどかしさを感じた。少しでも語彙を増やすなど日常会話に使える単語を事前に習得しておけばもっとモニターとの楽しい思い出を作れたのでは無いかと思う。さらに、街中にいる人もとても親切だった。靴紐が解けていると教えてくれたり、私がスマートフォンをリュックサックの外ポケットに入れてっていると「危ないから握った方が

良いよ」と教えてくれたり、観光客にとっても優しい人が多かった。カナダはモザイク模様のように色々な文化や民族が独立しているが、大きく見ると一つの国として調和がとれているという意味合いで「人種のモザイク」と言われている。実際に様々な人種が一つの街中に溶け込んでいたため、生活に慣れて観光客っぽさが消えた頃には私も現地の人に道を聞かれるくらいには馴染んだ。とにかく人種差別がなく過ごしやすく、話しかけてくれる人が多かったが上手く意思の疎通が取れずもどかしさを感じた。事前に英語力を少しでも上げておくことが理想だが、とはいえ英語が不得意な私でも「行ってよかった」と心から思えたので英語の面に関してはあまり不安にならなくても良いと感じた。

自分なりに留学を楽しもう

私は心の底からこのプログラムに参加して良かったと感じる。確かに疲れる事もあり早く帰りたいと思うこともあった。しかしカナダでの出会いはとても貴重な物だった。行く前は心配していたが、友達も少人数とはいえできた。そしてモニターとの交流もとても楽しかった。全然喋る事が出来ない私にもとても親切にしてくれたため、良い思い出がたくさんある。留学を楽しむためにはとにかくやりたい事はやってみる事が重要だと思う。たとえ一人でも行きたい所には行ってみる、少し勇気が必要でも参加したいものには参加してみるなど少しのチャレンジ精神で思い出がより色鮮やかになった。私の場合は正直なところ一人で過ごす時間が一番色鮮やかだったと思うが、それは人それぞれである。自分の楽しみたいように、過ごしたいように振る舞うことが一番重要だと思う。そして日本に帰国して手元に残ったのは「私は三週間カナダで過ごしたのだ」と言う自信である。慣れない土地で慣れない日々を楽しめた事、乗り越えられた事、いろんなことに挑戦できた事が自分への大きな自信となった。そして、私はとにかく大嫌いだった英語を少し好きになれた。この経験を活かし、これから先少しでも英語が上達出来たら良いと思う。

留学はとにかく気負わず生活するのが一番重要だと感じた。そこで英語力など何かを手に入れようと必死になる事も重要かも知れないが、特に気負わずとも帰国した時に手元に思い出が残り英語への拒否感も消えたので今後は自分のペースで英語を学びたいと思う。とにかく肩の力を抜いてリラックスが留学においては最も重要だと思う。